

令和7年5月30日（金）

都市センターホテル コスモスホール

（オンライン併用）



全国医学部長病院長会議
令和7年度定例社員総会
議 事 録

一般社団法人 全国医学部長病院長会議

一般社団法人 全国医学部長病院長会議 令和7年度 定例社員総会議事録

1. 開催日時 令和7年5月30日（金）13時00分～17時30分
2. 開催場所 東京都千代田区平河町2-4-1
都市センターホテル コスモスホール
3. 会員(社員)総数 164名
4. 出席会員(社員) 164名（うち委任状出席 11名。
また、51名はWEB会議システムによる出席）
5. 出席理事 相良 博典、熊ノ郷 淳、南學 正臣、東田 修二、林 篤志、石竹 達也、間瀬 光人、
西川 祐司、河野 博隆、岩淵 邦芳、鶴田 大輔、石原 俊治、志馬 伸朗、池松 和哉、
渡辺 敦、土谷 順彦、平松 祐司、麻生 好正、齋藤 繁、山岡 邦宏、田中 俊宏、
池内 浩基、永井 敦、門脇 則光、野口 満、平井 俊範
（以上30名中26名出席。熊ノ郷理事、林理事、石竹理事、岩淵理事、渡辺理事、
平松理事、山岡理事、田中理事、池内理事はWEB会議システムによる出席。）
6. 出席監事 新井 一、富澤 一仁
7. 議長 会長 相良 博典
8. 議事録作成者 会長 相良 博典
9. 議事の経過の要領及びその結果
上記のとおり過半数の社員が出席し本会は適法に成立した。よって、会長 相良 博典 は定款の規定により議長席に着き開会を宣し、WEB 会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認されて、議事に入った。

〔会長報告〕

会長から、前回の令和6年5月31日定例社員総会以降から本日までの活動等について報告があった。

〔確認事項〕

前回の令和6年5月31日定例社員総会議事録の確認が行われた。

〔報告事項〕

報告１：令和６年度事業報告について

議長の指示に基づき、事務局長 横山 直樹 が、４月２５日開催の理事会において承認された、令和６年度（令和６年４月１日から令和７年３月３１日）における本会議の事業状況について、別紙に基づき詳細に報告を行った。

〔審議事項〕

第１号議案 令和６年度収支決算承認の件

議長の指示に基づき、事務局長 横山 直樹 が、令和６年度（令和６年４月１日から令和７年３月３１日）における本会議の計算書類等について詳細に説明をした。

議長がこれについて監事の報告を求めたところ、監事 新井 一 と 富澤 一仁 は、計算書類等を綿密に調査した結果いずれも正確かつ適当であることを認めた旨を報告した。

よって、議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致をもって原案どおり承認された。

第２号議案 令和７年度事業計画承認の件

議長の指示に基づき、事務局長 横山 直樹 が、本会議の令和７年度（令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで）の事業計画案について、別紙に基づき詳細に説明をした。

議長がこれを議場に諮ったところ、満場一致をもって賛成し、原案どおり承認可決された。

第３号議案 令和７年度収支予算承認の件

議長の指示に基づき、事務局長 横山 直樹 が、本会議の令和７年度（令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで）の収支予算案について、別紙に基づき詳細に説明をした。

議長がこれを議場に諮ったところ、満場一致をもって賛成し、原案どおり承認可決された。

第４号議案 役員の選任について

議長は、辞任役員の後任者を補欠選任したい旨を述べ、議場に諮ったところ、いずれも満場一致をもって原案どおり賛成し、下記の者が選任された。なお、被選任者はその就任を承諾した。

記

就任理事	前任者	所属大学名
下沖 収	佐々木 真理	岩手医科大学
秋田 恵一	東田 修二	東京科学大学
山本 善裕	林 篤志	富山大学附属病院
渡邊 裕司	今野 弘之	浜松医科大学
松川 則之	間瀬 光人	名古屋市立大学病院
石井 優	熊ノ郷 淳	大阪大学
山本 健	石竹 達也	久留米大学

但し、任期は定款の規定により、前任者の任期満了する時までとする。

〔講演会〕

- (1) 医師会と医学部・大学病院の連携強化に向けて ／日本医師会 松本 吉郎 会長
- (2) 医学教育の現状と課題 ／文部科学省高等教育局医学教育課 日比 謙一郎 課長
- (3) 最近の医療政策の動向について ／厚生労働省医政局医事課 西嶋 康浩 課長
- (4) 未来を切り拓くイノベーション ／楽天グループ株式会社 三木谷 浩史 代表取締役会長兼社長

〔委員会報告事項〕

以下の各委員会から、別添資料に基づき、委員会報告がなされた。

(1) 研究・医学部大学院のあり方検討委員会／熊ノ郷 淳 委員長

文部科学省の委託事業により、大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査研究を行い報告書にまとめ文科省に提出した旨の報告があった。調査結果より、正規の年限(4年)での学位取得者数と取得率、医学生の大学院への進学希望割合や大学病院での勤務の希望割合について説明があった。

(2) DEI推進委員会／林 由起子 委員長

2年に一度実施している調査内容についての説明があった。介護支援、男性医師の育児休業・休暇に関する質問を含めて、医師の働き方改革開始1年後のDEI推進環境の変化の実態調査を実施中である旨の報告があった。

(3) 経営実態・労働環境ワーキンググループ／林 篤志 座長

診療報酬改定の間年間に実施している大学病院経営実態調査を開始した旨の報告があった。調査結果は来年2月に報告書として発刊予定である。

(4) 医学教育委員会／南學 正臣 委員長

医学教育に関わる3つのワーキンググループ(国家試験改善検討WG・卒後臨床研修検討WG・専門医に関するWG)と大学医学部入学試験制度小委員会と連携し、入試から学部教育、卒後臨床研修、専門医教育までの医学教育全般に関して検討する旨の報告があった。

(5) 大学医学部入学試験制度検討小委員会／東田 修二 委員長

令和5年度に実施した医学部入試に関するアンケート調査結果に対する評価と、2025年度実施予定のアンケート調査の検討を行った旨の報告があった。

(6) 国家試験改善検討ワーキンググループ／河野 博隆 座長

本年2月に行われた第119回医師国家試験に関してアンケート調査を実施した旨の報告があった。調査結果をもとに厚生労働省、文部科学省に要望書を提出する予定であり、引き続き医師国家試験の改革について検討する旨が示された。

(7) 卒後臨床研修検討ワーキンググループ／代理 相良 博典 会長

令和 8 年度から導入が検討されている「広域連携型プログラム」について、プログラムの対象となる大学に対し本年 1 月に準備状況と課題についてのアンケートを実施した旨の報告があった。

(8) 専門医に関するワーキンググループ／古川 博之 座長

地域枠に関する問題、サブスペシャリティの方向性、シーリングに関する検証、研究力の低下問題等の課題について検討している旨の報告があった。会員からは、医師の絶対数が少ない県で医師多数県となっている場合もあるためシーリングの緩和に関する意見があった。

(9) 動物実験検討委員会／木村 宏 委員長

動物の愛護及び管理に関する法律の改正について検討している旨の報告があった。

(10) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会／大屋 祐輔 委員長

文部科学省の委託事業により、地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査と意見交換会の内容を報告書にまとめ文部科学省に提出した旨の報告があった。また、厚生労働省の「新たな地域医療構想等に関する検討会」において検討されている、医師の派遣機能、医育機能、より広域な観点で診療を担う機能についての懸念点や要望等を把握するために、大学病院の医療機関機能に関するアンケートを実施した旨の報告があった。会員からは、臨時定員がなくなった場合に恒久定員の中でどう地域枠をつくっていくかが課題となる旨の意見があった。

(11) 患者安全推進委員会／木下 浩作 委員長

令和 6 年度に実施した医療事故調査制度に関するアンケート調査の結果について説明があった。また、発足以来 10 年が経過する医療事故調査制度について、課題や意見書をまとめる予定が示された。会員からは、医療事故調査制度の名称により制度の趣旨について国民の理解が得られていない事や遺族とのコミュニケーションの重要性について意見があった。

(12) 臨床研究・利益相反検討委員会／代理 相良 博典 会長

本年 3 月に臨床研究法の問題点の抽出や組織における利益相反の現状把握を目的とした調査を実施した旨の報告があった。

(13) 広報委員会／金井 隆典 委員長

昨年 9 月に医師の働き方改革についての記者会見、昨年 11 月と本年 4 月の理事会終了後に定例記者会見を開催した旨の報告があった。また、5 月に広報誌を発刊した旨の報告があった。会員からは、大学病院や特定機能病院の状況について国民の理解が得られるようなメディア等の活用について意見があった。

(14) 医師の働き方改革検討委員会／前田 嘉信 委員長

医師の働き方改革施行後の状況や課題について調査した医師の働き方改革に関するアンケート調査の結果について説明があった。メディカルスタッフの不足によりタスクシフトシェアが充分

に機能していない、人件費の増加や収益減による病院経営への影響、教育・研究時間の減少により医師のキャリア形成や医療の質の低下の懸念等の課題について引き続き検討する旨が示された。会員からは、医師の働き方改革による事務方の負担や時間外手当の増加について意見があった。

つづいて、提案議題があった近畿地区の野々村病院長（大阪大学）より、若手医師の研究や教育時間の確保が困難な状況や若手医師の研究に対するモチベーションの保ち方について協議の提案があり、意見が交わされた。会員からは、若手医師の学会参加等への支援の重要性と学会出張費や研究費の確保が困難な状況について意見があった。

(15) 医学部・医科大学の白書調査委員会／羽渕 友則 委員長

令和 6 年度に白書調査を実施し、結果を報告書にとりまとめた旨の報告があった。報告書は 6 月に発刊する予定である。

(16) カリキュラム調査委員会／伊野 美幸 委員長

2 年に 1 度実施しているカリキュラム調査を今年度に予定している旨の説明があった。

(17) 共用試験検討委員会／関根 道和 委員長

令和 7 年 3 月に厚生労働省、文部科学省、医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）に対して要望書を提出した旨の報告があった。要望内容として、OSCE の課題・評価者・模擬患者等に関する要望、CATO の財政再建計画と会費に関する要望、実施大学への支援に関する要望について説明があり、今後も CATO と協調し、より良い試験制度となるように現状の把握や課題について検討していく旨が示された。

つづいて、提案議題があった地区より地区部会での検討内容について発言があり、意見が交わされた。

東北・北海道地区の羽渕医学部長（秋田大学）より、共用試験実施のための内部評価者、模擬患者、運営補助者、事務職員等の安定的な人員確保に課題がある旨の説明があった。

中国・四国地区の井上医学部長（高知大学）より、オンラインによる評価者認定講習会の実施、各試験室の評価者を 1 名とする等の負担軽減の要望について説明があった。

会員からは、教員のインセンティブや評価等について、事務職員の負担軽減や効率化について、評価者講習会の負担軽減の要望等について意見が交わされた。

〔地区部会報告 提案議題〕

(1) 若手医師の確保～研究時間の確保も含めて～

／近畿地区（説明者：大阪大学 野々村祝夫病院長）

委員会報告(14)において協議

(2) 共用試験（OSCE・CBT）における人員確保について

／東北・北海道地区（説明者：秋田大学 羽渕友則医学部長）

委員会報告(17)において協議

(3) 臨床実習前 OSCE における評価者負担の軽減について

／中国・四国地区（説明者：高知大学 井上啓史医学部長）

委員会報告(17)において協議

(4) 生成 AI を活用した研究活動に関する指針の策定について

／九州地区（説明者：福岡大学 小玉正太医学部長、熊本大学 尾池雄一医学部長）

働き方改革施行後、限られた時間での研究活動と研究成果の発信が求められる現場において、生成 AI の研究活動への活用が期待されているが、生成 AI の研究活動への利用は様々な課題が想定されることから、生成 AI を活用した研究活動について指針の策定とその内容、また研究活用への AI の利用状況と今後の可能性についての協議の提案があり、意見が交わされた。

(5) 合理的配慮の実情や判断基準、合理的配慮と医師としての適性評価のバランスについて

／中国・四国地区（説明者：高知大学 井上啓史医学部長）

合理的配慮の申請が増加する中、特に臨床実習の際の対応が課題となっていることから、合理的配慮の実情や判断基準、合理的配慮と医師としての適性評価のバランスについての協議の提案があり、意見が交わされた。

(6) 初期臨床研修先病院の見学のための実習中の欠席について

／中国・四国地区（説明者：高知大学 井上啓史医学部長）

臨床実習中に、初期臨床研修先病院の見学を希望して実習を欠席する学生が増えてきていることから、各大学の現状と考え方の協議の提案があり、意見が交わされた。

以上をもって本日の議事が終了したので、議長は閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款の規定に基づき、議長が次に記名押印する。

令和 7 年 5 月 3 0 日

一般社団法人全国医学部長病院長会議

定例社員総会

議 長 会長（代表理事）

相良 博典

